


ふりがな 氏名	なかとう ひろと 中藤 寛人	都道府県	岡山県	
所属/肩書	岡山大学経済学部経済学科			
私のESD活動	<ul style="list-style-type: none"> ・国立吉備青年の家にてボランティア（青少年教育） ・岡山プレーパークのお手伝い（青少年教育、地域活性） 			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は、現在「吉備青年の家」でボランティアを行っております。自然体験活動の減少に伴い、それらを提供する立場としてボランティアとして関わらせていただいております。例えば、今年の6月には、吉備での事業の一つである「アストロキャンプ」に参加させていただきました。子どもがグループの中で、星の学習をしながら成長する姿を見届けました。私は、女の子が1年生から6年生まで1人ずついる班を担当しました。どうしても班のグループワークに参加しない3年生の女の子を、どのように支援という形でグループに参加させるかに悩みました。それとなく6年生の班長さんに伝えることで、自然と6人全員が一人一人を気遣い、グループの一員として活動しました時には、子どもの成長が感じられ、感動しました。ここで学びを得たのは、何も子どもだけではありません。指導をするのではなく、子ども達に悟らせる形、つまり支援という形で子ども達だけで成長してもらうことの大切さ、また支援には様々な形があり、正解も不正解もないということを私は学びました。実際、班長さんにそれとなく今後どうしたら良いかを伝えた行為は、もしかしたら干渉しすぎの行為であり、班長さんにもっと何を自身がすべきかを考える時間を与えれば良かったのかもしれない。

今年の8月には、同じく吉備の事業である桃太郎キャンプにも参加する予定であり、また現在は来年に向け、吉備の事業を1から作り上げていく活動もしております。これらの事業でも、ボランティアの役割は支援を通じて子ども達の成長を促すことです。アストロキャンプで得た学びを大切に、支援を通じて今後の活動にも貢献していきます。

○「国立吉備青少年自然の家」 <http://kibi.niye.go.jp/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

地域活性と青少年教育を融合させた活動です。社会人ではなく、大学生であるからこそできる活動を行ないたいです。例えば、大学内に中学年以上の小学生を招待し、岡山の魅力を伝える発表をしてもらう活動をしたいです。まずこの活動を行うには、子ども達に岡山の魅力について知ってもらわなければなりません。そこで、私は子ども達に体験活動を通じて岡山の歴史について知識を深めてもらいたいと考えています。例えば、岡山県の玉島という地域には、玉島味噌醤油という100年以上の歴史のある企業があります。その企業の協力の下、子ども達に玉島の歴史を学びながら、実際に味噌作りを体験してもらい、地元について興味を持つきっかけを提供したいです。その上で、子ども達自身で感じた地元の魅力を、子ども達自身の言葉で大学生に伝える機会も提供したいと思います。この過程において、対象者理解を深めることなどを目的としグループワーク等を行なうことで、青少年教育を実施したいです。私自身が地域活性化等の大切さを身の回りの人々に訴えかけてもその効果は小さく、それよりも純粋な子ども達はその大切さを訴えかけた方がきっと効果は大きいと私は考えています。子ども達の活動を通じて、地元に興味を持ってくれる大学生が増えると、それは地域活性化の第一歩になると思います。そういった意味でも、このような地域活性と青少年教育を融合した活動を、今後展開していきたいです。